



Thank you Chattanooga friends!!

笑顔が繋ぐ、友情と文化交流の日々は、一生のタカラモノ。

取材協力：(一財)遠野市教育文化振興財団

1_チャタヌーガ市役所を訪問し、同市職員らから歓迎を受けました 2_中浜教育長(派遣団団長)とアンディー・パーク市長が教育分野での相互交流について意見を交わしました 3_テーマ別研修で農場を見学する高校生 4_子どもたちに囲まれた高校生。英語のコミュニケーション力はめきめき上達 5_交流をサポートしてくれた遠野名誉親善大使ルイーザ・メンッチさん(右上)、CSAS校のジェニー先生(左下)と記念撮影




財団のフェイスブックで滞在中の様子を紹介!
滞在中の詳しい模様は、(一財)遠野市教育文化振興財団の公式フェイスブックで紹介しています。

FB 遠野市教育文化振興財団

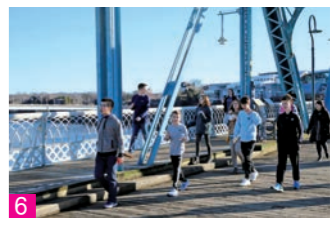
本年度の派遣事業は、高校魅力化プロジェクトの一環として、高校生の派遣人数を4人から8人に増やすなど生徒の国際教育を後押し。また、「ビジネスコース」と「農業コース」のテーマ別研修も初めて開催され、米国の産業に触れ、学ぶ機会が設けられました。

ホストファミリーらの優しさに包まれ、輝く笑顔を見せた派遣生たち。現地で体験したことや、数えきれないたくさんの学びは、生徒たちの一生のタカラモノとなり、両市を繋ぐ懸け橋となることでしょう。

中学生9人と高校生8人が期待に胸を膨らませて海を渡り、本市の姉妹都市・米国テネシー州チャタヌーガ市で友情を深めました。

本年度の中高生海外派遣交流事業姉妹都市等交流事業実行委員会主催は、1月4日から、中学生は13日間、高校生は16日間の日程で実施。現地では、ホームステイ先から中学生はCSLA校、高校生はCSAS校に通学しました。

派遣生は、両校の生徒らと一緒に特色ある授業を体験。折り紙や絵本などを使って、日本文化を紹介しました。はじめこそ緊張した様子も見られた派遣生ですが、すぐに打ち解け、ワクワクするような楽しい日々を過ごしました。登校最終日、別れを前に両校では集会が開かれ、派遣生がパフォーマンスを披露。中学生は、練習を重ねたダンスや応援歌などで会場を笑顔いっぱいにしました。高校生は、息の合ったダンスのほか、遠野の学校の様子を映像で紹介。会場には驚きと歓声が沸き起こりました。



★インタビュー

交流がいつまでも続くように私も力になりたい。

遠野高2年 (高校生派遣団リーダー) 村上 志保さん



アメリカの学生は自由も多い反面、自立心と責任感を持って生活する姿が印象的でした。両市の交流を支え、素敵な経験を与えてくれた皆さんに感謝。この交流がいつまでも続くように、私も力になりたいです。

不安は消え、楽しい日々経験を進学・就職に生かしたい

遠野東中2年 (中学生派遣団リーダー) 菊池 翼さん



英語が通じるか不安でした。でも、ホストファミリーやCSLA校の皆さんが優しく、すぐに交流を楽しむことができました。毎日が楽しくて、新しい発見の連続。この経験を自分の進路に生かしたいです。

14_高校生はニューヨーク研修も! 米国最大都市のエネルギーは圧倒的でした 15_全てのホストファミリーが集まるパーティーでさらに絆を深めました 16・17_別れを前にあふれる感情。離れたいほど充実した日々「ありがとう」

6_中学生がホストファミリーとチャタヌーガ市内を散策。チャタヌーガは景色もGood!! 7・8・9_中学生がCSLA校幼稚園部と小学部の子どもたちと絵本の読み聞かせや折り紙で交流しました 10_ホストファミリーと中学生が大集合。同市で子どもたちに大人気の施設で休日を過ごしました 11_バスケットなど、スポーツで交流 12_バーガーブリーズ! 注文も自力で頑張りました 13_登校最終日にパフォーマンスを披露する中学生